

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に理念の唱和をご利用者の前で行い、職員間で理念の共有を図っております。	経営理念に加え、事業所独自の理念について職員間で話し合いながら年間目標を作り上げ、朝礼時の唱和を継続していくことで職員全体への理解浸透を図っておりサービス向上に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の回覧板にて、お茶の間会参加の要請を頂いたり、回覧板に、苑でのいも煮会開催をお知らせし、地域との情報交換と交流ができています。	利用者が地域の中で安心して暮らしていくことが出来るように、との思いから自治会に加入し地域からの情報を得ながら、消防訓練への参加や田端町のお茶の間会への継続的な参加、お祭り等地域行事へ出向くことも多い。事業所の行事についても回覧板でお知らせし来所してもらえる機会も多く、誰でもが気軽に立ち寄れる事業所を目指して地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、ご利用者の近況報告をさせて頂き、認知症の人への理解と支援についての話し合いが持たれています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	苑でのご利用者への関わり、取り組み状況を報告しながら、メンバーの方からのご意見を頂き、サービスの向上に繋がるように取り組んでおります。	会議では事業所の状況報告と共にサービスの実際について報告を行い、質問や意見をサービス向上に活かしている。利用者、家族の参加の予定も視野に入れつつ進めてきたが調整の難しさもあり、実際の参加も少なかったことを踏まえ、今後の課題としているところである。	利用者との関わりや、取り組み状況を報告しながら、メンバーから率直な意見をいただき会議は進められ、いただいた意見をサービス向上に活かしている。今後は利用者、家族の参加の機会を設けて、よりよい会議の場となることが期待される。また、会議内容についても職員全員への伝達方法の工夫も必要であること、市担当者からも利用者の生活ぶりを見てもらう機会の場とすることも期待される。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者には、運営推進会議に参加頂き、取り組みや実情を報告し、ご意見を頂いております。	運営推進会議に市担当者とのパイプ役として包括支援センターから2名の職員が入っており、日ごろから何でも相談できる積極的な関係性が構築されており、運営推進会議のみではなく必要時に相談、助言、連絡等が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての講習会に参加し、理解を深め、日常的に拘束しないケアに取り組んでおります。	身体拘束についての具体的な行為や言葉による拘束について理解を深め、「人権を守ることがケアの基本である」という認識のもと、抑圧感のない自由な暮らしの支援に努めており、車いすの配置や環境整備等、気づいた時にはその場で職員への声掛けを行い改善に向けている。	利用者の安全と人権を守り自由な暮らしを支援するため、身体拘束廃止を強く推し進めている。今年度は都合により研修会への参加の機会がなかったが、今後も研修会への参加や定期的な勉強会を積み重ねていくなど、より理解を深めていくことが期待される。
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての講習会にも参加し、拘束と同様に、日常的に留意しながら取り組んでおります。	外部研修、内部研修で学ぶ機会を持ち、お互いに意識し合いながら虐待のないケアを目指している。日々の関わりの中でも利用者に寄り添い、本人の話に耳を傾け安心して過ごしていけるよう支援に努めている。また、管理者は職員の様子を窺いながら声をかけたり、職員の疲労が蓄積されないよう、何でも相談できる雰囲気づくりに努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて、制度を活用できるように、学ぶ必要があると考えております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居時に契約書と重要事項説明書で詳細をご説明し、同意を得ております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様から頂いたご意見、ご要望は随時反映させるように努めております。苦情内容を頂いた場合は、運営推進会議でも報告致しております。	毎月、事業所の会報と共に利用者の近況報告の際、電話、または面会の折には何でも話してもらえる雰囲気づくりに努め、利用者同士の対話の中や入浴時の話の中でも要望を受け止め、職員で検討し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議を年2回計画している。日常的に意見や相談に応じ、話す機会があります。	管理者は日常的に職員との会話の機会を大切にして、要望を聴きだすようにしている。出された要望は会議でも話し合われており、更にはアイデアの取り上げ等もあり運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と管理者の1対1での個別面談を年1回予定している。日常的に話す機会があり、相談に応じております。職員同志の和やかな座談会の場も、今年度より取り入れております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画で、研修参加を呼びかけている。今年度は、外部研修の依頼もあり市外のGH研修も行えました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の他GHとの交換研修や、合同でご利用者、職員が温泉施設で食事会をしたり、交流する機会があります。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に、ご本人、ご家族様に意見を頂きながら、ご本人、ご家族様共々安心して生活ができるように心がけております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前に、ご本人だけでなく、ご家族様からのご意見も大切に伺いながら、ご本人を共に支援させて頂く心構えをお伝えしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に、現在のご本人の状態に応じ、受診対応をご家族様に依頼しております。連携医の往診対応や、他の医療機関に入院するケースもあることをご説明しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者に生き生きと共同生活を送って頂く為に、それを支える立場にある事を意識しながら、より良い関係作りに努めております。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用状況報告と苑だよりを毎月、ご家族様へ発送し、その中で、苑の行事への参加を呼びかけております。ご利用者からもご家族様に連絡できるように致しております。	毎月、事業所の会報と共に利用者の様子や職員との関りを伝えるなど安心してもらっている。また、行事への案内や参加を呼びかけ、家族の思いにも寄り添いながら共に本人を支える場面づくりの支援に努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域との関係が継続できるようにお茶の間会や、コミュニティー歌の会に参加したり、馴染みの定期市で買い物して頂いたり、早朝から村上大祭のおしゃぎり見学をしたり、ニーズに応じて、出来る限り、様々な対応をしています。	利用者の希望を聴きながら、地域の「お茶の間会」や「コミュニティー歌の会」への参加、馴染みの定期市での買い物や祭りに出かける、更には昔から利用している美容院に行き続けている利用者もおられるなど、出来る限り、本人が地域と地域住民との継続的な交流が出来るよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の性格や特徴を把握し、集団の中で孤立せずに、その方らしく生活が営めるような支援を心掛けております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去となったとしても、これまでの関係性を大切にしております。現在までの苑の根本姿勢に変化はありません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の生活歴、趣味、馴染みの暮らし方や、時にわがままとも思われる要望についても折り合いを持ちながら対応しております。その方らしさを大切にしたい為です。	利用者・家族から、これまでの暮らしぶりや意向の把握に努め、日々の会話の中での言葉や表情からもその思いを汲み取り、職員全員が1人ひとりの思いや意向について関心をはらい、把握していくように努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者の馴染み、生活歴、趣味嗜好の把握をして、その方が生き生きとされるような試みが提供できるように努めております。	プライバシーに配慮しつつ、職員が本人や家族と馴染みの関係を築き上げながら、日々の関わりの中でもこれまでの暮らし方が継続できるよう意向の把握に努めている。有する力を発揮できるよう努め、手芸や畑での野菜作りを楽しんでいる利用者の豊かな表情を窺いながら継続的な生活支援に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者を理解し、心身共に健やかで、その方らしく生活が送れるように心がけております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成は、計画担当の介護支援専門員と計画作成担当者を主に、ご本人やご家族の意向を反映したものになるように努めております。	本人、家族、または前事業所からの情報や日々の関わりの中での生活に関する思いや意向を確認し、相談しながら作成している。カンファレンス、モニタリングも日々の実施状況を確認しながら現状に即した介護計画に繋げている。	職員は一人ひとりの利用者主体の介護計画の作成に努めているが、介護計画の内容について、本人、家族へのきめ細かい説明、同意、カンファレンスやモニタリングについても本人、家族の意見を得られる工夫をしていかれることが望まれる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の状態や経過は、個別記録に随時残していき、職員間での申し送りを行いながら、情報の共有を心掛けております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	活き活きとされるからこそそのニーズであり、その時々ニーズにできる限りで対応していくことを大切にしております。既存のサービスに捉われず、柔軟な姿勢で取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用を今年度の目標に据えており、入居以前にご利用者と関わりのあったお店を利用したり、地域のお店からの発注を増やし、関わりを復活できればと考えております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が、当苑の連携医である割合が全体を占めてきているので、苑対応にてスムーズな受診、又は、医師に往診して頂いております。	協力医療機関が事業所の連携医でもあり、入居後は往診体制も整っていることから本人、家族の希望もあり事業所の連携医に移行される方もおられ、安心できる生活の実現に向け努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	開設当初から勤務している看護師とは、常に相談や情報の共有を図り、適切な指示のもと、職員全体でご利用者の健康管理に努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院された場合は、医療機関や、ご家族と退院の日時等の連絡を行い、退院時の状態報告についても把握し、なるべく早期の退院に努めております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年度は、より重度化と看取りケアについての理解を深める試みとして、研修参加と勉強会を開催しています。運営推進会議でも、苑の方針を伝えており、重度化、看取り対応を行なうGHとして認可されてきました。	重度化した場合や終末期の在り方については、運営推進会議でも事業所の方針について伝え、内外部研修や勉強会を積み重ね、支援体制の共有理解に取り組む等、利用者、家族の意向を踏まえ、協力病院との密な連携を図りながら体制を整えていく努力をしている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時に備えたマニュアルを作成し、職員間で対応できるように努めております。	緊急時事故対応マニュアルを基に、AEDの操作手順についても全職員が実施できるように学習会を開き、知識、技術の習得に努め、実践に活かされるよう積み重ねている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、地域の避難訓練に参加し、災害時の緊急避難場所と避難方法を職員全体で把握しています。地域の方にも、災害時の協力を要請しております。	災害時マニュアルを整備し、年1回事業所単独での避難訓練の実施や地域の避難訓練にも定期的に参加している。また、避難場所への誘導方法や誘導時間等も職員全体で確認合っている。災害時に備えての備蓄等も準備されている。今年度からは町内の防災委員の協力が得られる体制も構築されるなど、利用者の安全な生活にむけて、地域との協力体制の取り組みに努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の性格、生活歴、職歴等を把握し、その方の役割や背景に向けた取り組みを行うように、職員間で心掛けて対応しております。	職員は事業所の理念に基づき、利用者、家族の思いを大切に「笑顔」とさりげない言葉がけで利用者と向き合い、やさしいケアに取り組んでいる。管理者による助言や職員同士による気づきの声かけなども行われ、プライバシーの確保に向け職員全員で理解を深め、研鑽を積んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が希望されることに応えていくように努めることで、思いを職員へ伝えやすい環境作り、ご利用者との信頼関係の構築を図っております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	苑の都合やきまりを優先するのではなく、ご利用者の意向に合わせて、できる限りで臨機応変にニーズに対応しております。急な外出希望に対応することもあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪を依頼し、苑内で実施したり、地域の美容室利用や、ハンドマッサージのボランティアも毎月来苑したり、その方の馴染みの美容室にご家族がお連れしたりもしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は、日常的にご利用者と一緒に行なっています。メニューは職員が作成しておりますが、ご利用者の希望メニューを取り入れ、メニューを急に変更する場合があります。	食材は用意されているが、利用者の希望するメニューへの変更もあり、利用者は職員と共に食事の準備や後片付けなど、出来る範囲で個々の力を発揮している。食材の買い出しに近くのスーパーへ出かけることも楽しみとなっており、食事は一日の大切な活動と語らいの時間ともなっている。、	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録に残し、栄養状態を把握し、一人一人の嗜好や禁止食材を情報として職員間で共有しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施は習慣化し、定着しております。その方の習慣やタイミングに合わせてして頂いたり、殺菌効果のあるお茶でのうがいも継続しております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から状況を観察して、一人一人のペースに合わせた声がけと、適宜介助を行ない、環境を整備したり、安全に自立できるよう支援しております。	個々の排泄パターンを把握し、自尊心に配慮しながら身体状況に応じて誘導したり、歩行介助をしている。トイレでの排泄を大切にしながら、フォーレ処置時もプライバシーに配慮して、羞恥心や不安を軽減するための配慮がなされている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で個々に排便状況を把握し、食事、水分摂取量に留意しながら対応しております。処方の下剤投与だけでなく、個々に乳酸菌飲料等を好みに合わせて提供しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前、午後の入浴を実施し、入浴を拒否された場合は、無理強いせず、タイミングを考慮したり、他の方法にて清潔の保持に努めております。それも拒否された場合は、他の日に同様を試みる等、その方に合わせた対応をしております。	個々の希望や状態に配慮した個別対応を行い、入浴を拒まれる方には無理強いすることなく、言葉かけの工夫や時間変更も行いながら入浴してもらっている。また、ゆず湯や菖蒲湯といった季節湯も楽しんでもらうなど、入浴が楽しいものとなるような工夫も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜共に、その方に合わせたケアを心がけ、メリハリのある生活の支援を心掛けております。お昼寝時間もあり、夕方には足浴にて清潔保持と、リラックス効果で安眠に繋げる支援も継続しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理は、苑の看護師が主体で行い、看護師からの申し送りを職員間で共有しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や、趣味嗜好を把握しており、その方が得意とされることや、楽しみをさりげなく提供する事で、張り合いのある生活支援に努めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	様々なケースがあり、その時々ニーズにできる限り対応できるように努めております。ご家族様と外出する機会もあり、コミュニティの歌の会では、ご近所の方も参加されており、快くお手伝いして下さり、助かっております。	日々の生活支援の一環として、職員と共に食材の買い出しや地域行事へ出向いたり家族と共に墓参りに行ったり、季節に合わせドライブに出かけるなど、外出を楽しむ機会を多く設けることで、利用者の気分転換が図られている。近隣の馴染みの方の協力もあり生活の活性化に繋げている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で利用できる金銭は、苑で管理しておりますが、買い物等でご希望があれば、一緒に出向いて選んで頂いたりする場合があります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から、ご本人に電話がきたり、ご本人からご家族へ連絡したいと申される場合等、気軽にやり取りができるようにしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご本人の馴染みの環境に合わせたものとし、共有スペースは広々と開放的に整えられた環境となっております。	共有空間は明るく、天井の梁も高く風土や習慣に合わせた空間づくりがなされている。行事の写真や作品が並べられ、窓からは花壇に咲く花や畑の作物なども見える。こうしたゆったりとした空間は、利用者の心安らぐ場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースのフロアーは、食事スペース、リビング、畳の間があり、用途に合わせてご利用者がどこで過ごすかは自由です。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、馴染みのある物や家具等を準備して頂き、その方に合わせた環境作りを心掛けております。	居室には本人や家族と相談し、普段から使い慣れている馴染みの物や家族の写真等を持参してもらい、思い思いの配置で飾ったり、使ってもらっている。危険のない安全な移動が出来る工夫や家具の配置にも工夫された居心地の良い生活空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の生活習慣や生活歴を考慮し、なるべく今までの生活を無理なく継続できるよう、環境設定を工夫し、さりげない介助にて、ご利用者の自立を支援できるよう心掛けております。		